



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2010 推進ニュース

— 介護ウェーブの “Big Wave” をおこそう! —

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう!

「介護困難事例100事例集」は、翌朝から問い合わせの電話が殺到!

記者会見と県担当者との懇談を行い困難事例にもとづき介護保険制度の問題点を告発(長野)



2010年11月5日、長野県庁で「介護困難事例100事例」と「介護保険制度の問題点」について、記者会見と長野県健康長寿課介護支援室との懇談を行いました。

記者会見は、新聞社等15人が訪れ、「費用負担が重く生活できない」「施設が足りない」「ヘルパーの生活援助が使えない」「職員の生活は」等、それぞれの担当分野の現場から困難な状況を告発しました。また、県連内で集約した「介護困難事例100事例」をまとめて冊子にしたことも紹介し、記者から「誰でも頂けますか?」と質問を受けました。

介護保険法改定に当たっては、「国や厚労省に、みなさんの意見も反映していきたい」

記者会見のあと、長野県健康長寿課介護支援室の5人の方と懇談しました。記者会見で説明した内容や、特養あずみの里で実施した待機者アンケートに返信があった112通について結果を報告し、入所を待ちながら介護の負担や費用問題が大きいことを訴えました。

事例集は事前に介護支援室に渡していましたが、室長は事例集に付箋をつけて読み込んでいて、「こんな事例が本当にあるのか」と、実情について質問したり、特養待機者調査も県として在宅だけでなく、他の施設を利用して待っている数字も明らかにしていきたいことや、また、介護職員処遇改善交付金についても、平成23年以降も継続できるように知事から国に伝えてもらっているといった回答がありました。さらに、介護保険法改定に当たっては、「国や厚労省に、みなさんの意見も反映していきたい」と、力強い発言もありました。職員からは、記者会見をふくめ、「現場からの発信が大切だ」との感想が出されました。



記者会見の様子は信濃毎日新聞等で報道され、事例集についても紹介されたため、翌朝から問い合わせの電話が殺到しました。「信毎を見たんですが、事例集をいただけますか」と、数日県連の電話は鳴りっぱなしでした。介護をしているご家族からは、「共感したい」、施設の介護職員、民生委員、自治体の職員からも「学習したい」と問い合わせがありました。介護がまだまだ「社会化」されず、個人の負担に任されており、このような「訴え」を待ち望んでいたのかもしれない。社会保障として介護の実現をめざして、さらに大きなウェーブが必要です。

(長野県民医連 2010介護ウェーブニュース 豊かな介護に No.3 2010.11.30より)

誰もが不自由なく暮らせるよう、介護保険をよりよい制度にしていきたい 介護ウエーブ学習会に140人が参加 介護保険制度見直しの内容を深くつかむ(山梨)



山梨民医連介護ウエーブ推進本部は、2010年11月25日、今の介護をめぐる情勢と介護保険制度見直しの内容を深くつかむため「介護ウエーブ学習会」を開催しました。学習会の中で講師の山田智先生(全日本民医連副会長、介護・福祉部長)は、『改定介護保険「地域包括ケア」に対してのたたかいと対応の課題ー民医連におけるコミュニティーづくりー』というテーマで、介護保険制度見直しの最新情勢や、介護保険10年の検証として「保険あって介護なし」「所得の格差が介護の格差に」など、利用者・家族の現状から制度の問題点を指摘しました。

また、改定介護保険の中心となる「地域包括ケア」の生い立ちとその本質にもふれながら、「誰もが安心して住み続けられるまちづくり、地域包括ケアの街づくりは私たちの手で」と、たたかいと対応を強めていくことの重要性を訴えました。その他、全国で果敢に取り組まれている介護事業の展開の紹介や、民医連綱領に介護が位置づけられたことにもふれ、さらに介護分野に力を入れていくこと、介護ウエーブは新たな運動の広がりをつくり情勢を変革してきたことなどが報告されました。

講演のあと、介護現場から、「再認定で新しい介護度が引き下げられ、デイサービスも週4回から1回に減らさざるを得なくなり、そのため廃用が進み歩けなくなり病気も悪化、別人のようになって入院した(巨摩通所介護いきやり)など、昨年の要介護認定基準の見直しで、状態が変わらないのに介護度が軽くなり、今まで利用できたサービスが利用できない実態が報告され、「誰もが不自由なく暮らせるよう、介護保険をよりよい制度にしていきたい」(石和通所リハ)との決意が語られました。参加者からは「経済的な心配が無く必要な介護が受けられる制度保障が必要だと思う」(介護福祉士)、「今後はアンテナを高くし介護分野の運動もがんばっていきましょうと思います」(理学療法士)、「今日の学習を行動につなげていきたい」(看護師)などの感想が出されました。

「介護の日」介護改善街頭アピール行動に55人が参加！署名110筆

11月11日「介護の日」に、甲府駅南口で介護改善街頭アピール行動を行いました。介護職員を中心に55人が参加し、横断幕やのぼりを掲げチラシを配りながら署名への協力を訴え、110筆の署名が集まりました。また、「リレートーク」では8人の介護職員が次々とマイクを握り、みずから経験した事例を交えながら「必要な介護を安心して受けられる介護保険制度に」と呼びかけました。



山梨民医連介護ウエーブ推進本部では、今行っている介護改善署名を来年の通常国会までに5,000筆を集め提出する予定で各事業所をお願いしています。11月30日現在の署名数は1,364筆です。残りあと1ヶ月、ぜひ患者・利用者さん、地域の方々に呼びかけ署名を広めていきましょう。

(山梨民医連 介護ウエーブニュースNo.3 2010年11月30日より)

お問い合わせは、「介護ウエーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp